

光輝く月面で、地球を念う

筑波大学附属小学校 五年 植木 悠晴

僕の夢は、宇宙飛行士になって月に行き、地球の謎を解明して美しい地球とそこに住む多くの命を守ることだ。

月は地球の兄弟で地球よりも地球をよく知っている。同じ時期に誕生し、長い間ずっと地球を見続けてきた。四十六億年前の地層は、地球には残っていないが月にはたくさん残っている。言わば月は地球の凶鑑なのだ。

また、月の満ち欠けは地球の自然災害や生命の状態に関係している。僕は地震の発生にも関係しているのではないかと思う。

以前、東日本大震災で被害を受けた宮城県の松島を訪れた。僕は、そこに残る美しい島々を見て自然の強さを実感し、同時に数万という命があつという間に奪われたという現実、改めて自然の怖さを感じ知った。もし地震が予測できたのなら、たくさんの命を守ることができた

かもしれない。僕は、いつか宇宙飛行士になってこの美しい地球と多くの命を守りたいと強く思った。

二〇二一年、JAXAで一三年ぶりに募集が始まった宇宙飛行士の応募条件から学歴・専門分野の実務経験の制限が消えた。僕は宇宙飛行士になるために最も必要なものは人間力であることを改めて確信した。自分の意思を伝え相手を理解できるコミュニケーション能力、一つのミッションをチームで成し遂げるためのチームワーク力、限られた宇宙空間での業務に長期間携わるための忍耐力、緊急事態でも冷静な対応ができる決断力だ。

でも僕が一番必要だと思うものは、多様な価値観を理解しようとする心だ。これからの宇宙での活動は、様々な国の様々な文化を持つ人達と協力することが必要不可欠だ。育った環境が異なれば、正しいと思うことが違うかもしれない。

でも、自分から見て他の人達が違うように、他の人達から見て自分も違うのだ。だからこそ、多様な価値観を理解しようとする心を持てる人になりたい。

今の僕ができることは、学級活動や課外活動でもっと積極的にになって、色々な意見に耳を傾けられる人になることだ。そして中高生になったら部活動を通じて、体力・忍耐力・チームワーク力をつけ、リーダーにも挑戦したい。色々な国の人々とコミュニケーションをとるための語学力、月での研究のための専門知識の勉強もやはり大切だ。そして世界中の人々と異文化に触れる体験を重ねたい。

月に行つたことがある人はたった十二人、五十年前のアポロ計画の時だけだ。でも近年再び月が注目されている。水やエネルギー資源の確保にも希望が見え始め、他の惑星への宇宙港としても期待されている。近い将来、月面基地も開発され長期間の研究が可能になるだろう。僕は夜空に煌々と輝くあの月で、美しい地球のために働く自分の姿を夢見て、今できることを全力でがんばりたいと思う。

植木 悠晴 のライフプラン

将来なにになりたいか？ 月へ行って地球の謎を解明する宇宙飛行士

その理由：美しい地球とそこに住む多くの命を守るため。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2023年	11才(小5)	スキューバダイビングに挑戦 英語の本を読む	習い事代
2024年	12才(小6)	アメリカのサマースクールに参加 ケネディの宇宙センター見学	旅費
2025年	13才(中1)	テニス部に入学 体力・チームワークを身につける。	授業料、部活動費
2026年	14才(中2)	アメリカ旅行で、ジョンソン・スペース センター見学	旅費
2027年	15才(中3)	テニス部の部長になり、リーダーシップを学ぶ	
2028年	16才(高1)	オンライン英会話を始めて、異文化コ ミュニケーションを図り、語学もUP	授業料 オンライン英会話代
2029年	17才(高2)	夏休みに短期留学、ホームステイで外国 の友人をたくさん作る	留学費用
2030年	18才(高3)	大学受験に向けて猛勉強!	塾代
2031年	19才(大1)	航空宇宙学が学べる大学で英語 を習い始める。	授業料、ロシア語代
2032年	20才(大2)	短期留学、バックパッカーで旅をして 世界を知る	留学費用
2033年	21才(大3)	TOEIC 730点	
2034年	22才(大4)	研究室で専門知識を高め、卒業研究 にはげむ	
2035年	23才(修1)	JAXAと連携している研究室で研究に はげむ	
2036年	24才(修2)	就職活動にはげむ	就職活動費
2037年	25才(入社)	航空宇宙分野に携わる企業に入社	
2045年	33才	選抜試験合格で訓練にはげむ	
2047年	35才	月へ向けて出発!	